

ほんとはね…



あの子ばかり…

もっとやさしくしてほしい…

言葉でうまく言えなくて…

いつも怒られてばかりでなんだかイライラする…

わたしの話もきいてほしい…

あの子とあそびたい…

大切にしたいこと

- 「だめでしょ!」ではなく、まずは“どうしてそうしたのだろう”“そうしなければならなかったのだろう”と子どもの思いを聞くことが大切です。その後、「○○したかったんだね」と言葉で表現できない子どもの思いを受けとめたうえで、言葉を引き出していくことを大切にしていきましょう。
- 子どもは自分の思いが大切にされることで、“自分は大切な存在なんだ”と感ずることができ、その思いを基盤に相手の思いに気づき相手を思いやる気持ちが育まれていきます。乳児期のこの積み重ねが、自分自身を大切にすること・相手を大切にすることにつながっていきます。
- よく名前を呼ぶ子やよく注意してしまっている子はいませんか? 私たちおとなが同じ子ばかりに声をかけたりみんなの前で注意したりすることで「あの子はいつも名前を呼ばれていいな」「あの子はいつも怒られている子」と子どもたちの決めつけや偏見につながっていくこともあります。身近なおとなや保育者が決めつけた見方をするのではなく客観的にその子の思いを考え、肯定的なかかわりや言葉かけをしていくことが大切です。
- 大切なのは「ごめんね」を言わせることではなく、相手が言いたかった気持ちに気づくことです。その子の成長のために今一番何が大切かを考えることが大切です。

2歳児の“友だちのかかわり”って??

自分の世界から、だんだん友だちの存在、友だちの思いに気づいていく2歳児…
友だちとのさまざまなやり取りは、人とのかかわり方を知っていく大切なプロセスでもあります。



「思いどおりにいかない」



こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「またないてるの？」
- 「早くしなさい」
- 時間がかかるからと手伝ってしまう。
- 「自分でできるでしょ」

実は…

- 手伝ってほしいけれど、自分でやってみたい
- うまうまなくてイライラ…
- くやしいーっ!

大切にしたいこと

おとなの言いなりになりたくない自分が育ってきている時期です。この時期の子どもは、泣いたり、怒ったり、激しい感情をだすことで自分と向き合い、気持ちを整理しています。

子どもが抱えている「甘えたい気持ち」と「自分でしたい気持ち」という相反した欲求の両方を丁寧に聞き、受けとめることが大切です。子どもは受けとめられ、自分のことを理解して支えてくれる人がいることで、安心して次の活動に進むことができるのです。